

## 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

タイトル 肉用牛新ブランド「ごはんを食べた牛」の構築および耕畜連携の取組み

J A 名 旧 J A あぶくま石川（現 J A 夢みなみ）（福島県）

<p><b>1 動機</b> (経緯)</p>	<p>旧 J A あぶくま石川管内地域の主力産業である畜産業は、原発事故の影響を受け、放牧や自給飼料給付の自粛等を余儀なくされたことから、畜産経営コストが上昇しています。</p> <p>また、稲作業は米価下落等による担い手の減少・耕作放棄地の拡大が進んでおり、畜産業・稲作業両面からの対策が求められています。</p>
<p><b>2 概要</b></p>	<p>当 J A は、飼料用米の管内畜産業への有効活用や飼料用米を給付した肉用牛のブランド化（ブランド名：「ごはんを食べた牛」）に取り組むことで、地域の畜産業と稲作業の復興に取り組んでいます。</p> <p>なお、農林中央金庫福島支店は、飼料米の牛への給与実証実験費用および新ブランド牛の地場消費拡大に向けた J A 直売所内の精肉加工施設の整備費用に対し助成を行っています。</p>
<p><b>3 成果</b> (効果)</p>	<p>これらの取組みにより、地域畜産業の復興に加え、管内の飼料用米・自給飼料作物の需要が高まり、同作物の一段の生産拡大と所得向上、耕作放棄地の解消が期待されます。</p> <p>なお、J A 直売所内の精肉加工施設の整備により、当管内における牛肉消費は拡大傾向にあります。</p>
<p><b>4 今後の予定</b> (課題)</p>	<p>今後も管内主力産業の復興に向け、畜産業・稲作業両面からの支援に取り組むとともに、J A 直売所内の精肉加工施設により「ごはんを食べた牛」の消費拡大とブランド確立に貢献していく予定です。</p>



「ごはんを食べた牛」